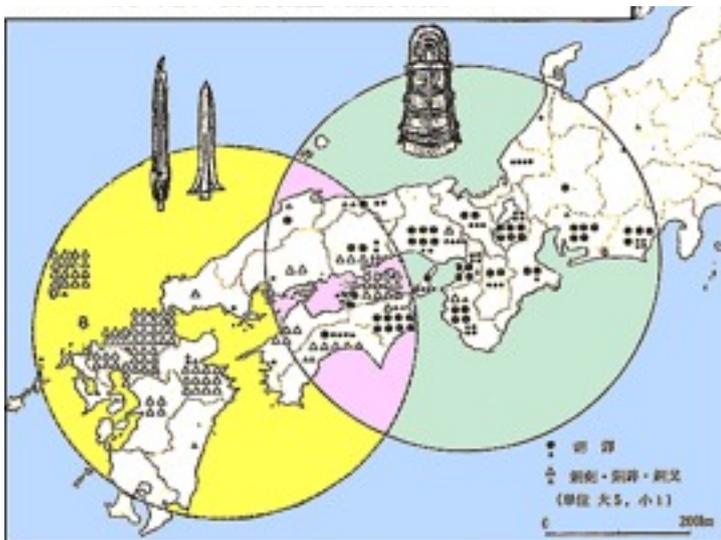


六甲山新聞

六甲山の宝

六甲山地の丘陵斜面で、工事中の作業員が偶然、土の中から金属の塊りを次々と見つけました。



昭和39年（1964）発見された銅鐸や銅戈の数はなんと21個です。これらは、弥生時代に作られた国産の物です。それらには、魚をくわえた鳥、アメンボ、カマキリ、トンボ、亀、等、沢山の線画が描かれていました。この銅鐸は全国でも少ししか発見されていないのです。これは、考古学者にとって重要な資料として昭和45年（1970）に国宝に指定されました。しかし、農耕に適していない山の斜面になぜ沢山の集落が作られたのでしょうか。研究によると弥生時代の終わり頃にあった戦乱のために見張りや逃げ場を作ったからだと言われています。銅鐸は、青銅（銅と錫の合金）で作られています。当時は、金色に輝いていたと考えられています。こうした銅鐸は、近畿地方を中心に全国で500個あまり見つかっています。見つかった銅鐸のほとんどが山の斜面など予想外の

場所から見つかることが多く、何のために作られたのかははっきりしていません。また、紀元前200年頃からおよそ400年間使われていましたが、その後、突然消えてしまいます。もともとは家畜の首に吊るす鐘のような物が大陸から伝わり、独自の発展を遂げたと考えられていますが、分からないことも多く、謎の青銅器ともいわれています。それでは、なぜ強い鉄ではなく青銅を使ったのでしょうか。それは、鉄を融かすには熱を1370度まで上げなければいけませんが、青銅は850度で融けます。だから、銅鐸や銅矛は青銅で出来ているのです。

六甲山クイズ

第一問 六甲山の夜景は何万ドルですか？

第二問 六甲山牧場の当初の主役は？

クイズ解答

第一問 鉢巻展望台でした。

第二問 グルームさんでした。

第三問 101番地でした。